



北陸連携市民会議ニュース

Vol. 2

発行：2008年2月25日

北陸連携並行在来線等活用市民会議

〒920-1161 金沢市鈴見台 4-2-22
事務局 090-3355-4638(清水)

研究の進捗状況について

最近、新聞紙上、テレビなどメディアに、新幹線関連のニュースが多くなりました。2014年に金沢までの開通が期待され、金沢以西においても注目が高まっている北陸新幹線は、果たして幸運を運んでくるのかどうか、ということについて興味津々なところでしょう。

しかし、私たちは北陸本線が並行在来線となって活用されるかどうか、ということに視点を置き、あくまでも利用者の立場で活用すべきという前提で、使いやすい在来線の仕様設計とその運営の形を研究しています。

北陸本線そのものだけでなく、それと結節する地方鉄道の活用も重要であるということが、これまでの研究で分かってきました。つまり、富山においては城端線であったり、金沢は七尾線であったり、福井でも福武線であったりします。ということで、幹線としての北陸本線の位置づけは、各県において異なっているということです。

こうした事情を鑑みて、北陸エリアの需要を見込むと、鉄軌道の活用では、改めて北陸本線の重要性が際立ってきます。

今回のニュースレターは、北陸本線の価値をより高める方策の一つ「新駅新設」について、一部紹介します。

《研究項目》(予定)

はじめに

第一章 日本海沿線の北陸新幹線が果たす役割

- 1-1 鉄道の現状
- 1-2 北陸新幹線の現状と役割

第二章 利用者が望む鉄道とは

- 2-1 **利用者からの視点**
- 2-2 **新駅新設**
- 2-3 ダイヤ(直江津-金沢間、金沢-敦賀間)
- 2-4 運賃
- 2-5 乗り継ぎ
(枝線や私鉄・LRT、バス、自転車との結節)

第三章 利用者が願う「ちょっと工夫」雑記帳

デザイン戦略、区間毎の最適な使い方、接客設備、利用者感覚の活用、通学定期割引、自動車通勤・利用ではできないことを可能に!、生活シーンに対応する、ICカードの活用と応用、ファンを増やす etc

第四章 並行在来線となる北陸本線ならではの機能

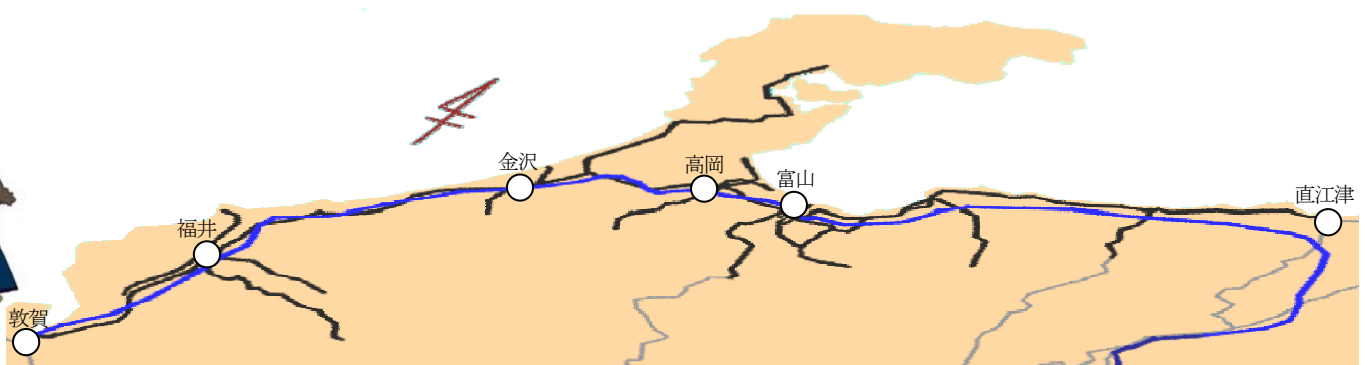
- 4-1 高規格仕様がもたらすもの
- 4-2 貨物需要がもたらすもの

第五章 経営の見通し(便益からの予測と努力)

- 5-1 経営形態について
- 5-2 旅客からの売り上げ
- 5-3 国の支援策
- 5-4 運営努力(利用促進策)

まとめ

地域住民、自治体、事業者が一体となった取り組み、枝線、私鉄、バスなどが連携した取り組みを行う。



新駅新設の概要

新駅を中心に紹介します。既存駅が連続するところは(略)で駅名を省略しました。△は連絡駅として改修。

JR北陸本線		
新駅	駅名	
	直江津	
○	五智	国道8号交差点付近、五智公園・国分寺等の観光資源と郊外型住宅地
	谷浜	
(略)		
	梶屋敷	
○	海川	竹ヶ花、糸魚川総合病院
	糸魚川	
(略)		
	生地	
△	黒部	地鉄と連結
○	片貝	持光寺、新川女子高
	魚津	地鉄との結合(新魚津)
○	本魚津	地鉄との結合(現電鉄魚津)
○	魚津水族館	
○	西魚津	地鉄との結合
	東滑川	地鉄との結合(地鉄中村)
○	早月加積	地鉄との結合
○	浜加積	地鉄との結合
	滑川	
○	中滑川	地鉄との結合
	水橋	
	東富山	○ 鍋田: 国道8号の交差点南側、P&R
○	上赤江	アピタ、P&R
	富山	○ 田川屋: 高山線分岐点東側
	呉羽	○ 北代: 県立図書館の北
○	願海寺	富山短大、P&R
	小杉	
	越中大門	
○	蓮花寺	外環状道路との交差点、P&R
	高岡	
○	厚生連病院	永楽町
○	和田	外環状道路交差点、泉が丘団地、P&R
	西高岡	
○	宝来	能越自動車道との交差点、P&R
	福岡	

	石動	
	倶利伽羅	
○	津幡運動公園	運動講演、倶利伽羅不動尊
○	津幡川	浅田陸橋の下、津幡高校
	津幡	
○	岸川	国道8号線岸川町バス停付近、P&R
	森本	
○	疋田	疋田団地、疋田町と柳橋町の境界、P&R
	東金沢	
	金沢	
○	長土塀	市民芸術村、犀川付近、P&R
	西金沢	
	野々市	
	松任	
○	千代野	
	加賀笠間	
(略)		
	森田	
○	北福井	大願寺陸橋高架下、P&R
○	福井口	えちぜん鉄道と連絡
	福井	
△	南福井	福井鉄道と連絡、P&R
	越前花堂	
(略)		
	鯖江	
○	北武生	サンドーム福井
	武生	
○	南武生	曙町バス停付近、武生工
	王子保	
(略)		
	敦賀	

以上、本会が考えている内容です。並行在来線を有効に活かすためには、新駅を設けたり、利用者にとって使いやすいP&Rを併設したりすることも必要だといえるでしょう。こうした設備はバスや自転車など、他の交通機関との結節にも有効であるだけでなく、脱マイカー通勤・通学対策になる、と考えます。

自動車が円滑に走行するために道路の整備・拡張を進めるべきだ、という考え方もあるでしょうが、公共交通による安心・安全を重視する考え方もあります。

多様な価値観を認め合ってこそ、都市の魅力はより創出されるのではないのでしょうか。